



岸 忠雄 さん (70 才)

14才で腎臓病と診断され、  
44年の保存期の間結婚、  
4人の男の子に恵まれる。  
PD導入後も定年まで勤め、  
さらに5年を働いてHDに移行。  
今が一番元気！

## 透析をしても勤められることを見せたいと思ったんです

昭和23年生まれの岸忠雄さんは団塊の世代ど真ん中、有給休暇をとることもなく、仕事一筋で生きてきました。そんな岸さんには親しい人にしかいない秘密がありました。それは腎臓病！病気だということで仕事で斟酌されたくない、その思いを貫くための自己管理。その結果、保存期を延ばし、透析に入ってから快適な透析ライフに結びついているのです。

### 頑張れるだけ頑張り 透析導入を延ばす

**松村** 去年は勲章を受けられたそうでおめでとうございます。どんな勲章ですか？

**岸** 瑞宝小綬章というので、公務員として長年勤めたことを評価いただきました。お勤めは透析をしながらもつづけていたのですか？

58才で腹膜透析（PD）を導入しました。60才で退官しましたが、その後も別組織で5年勤めました。その間はずっとPDをしていました。  
**仕事中に透析液の交換を？**

いえ、夜中に自動的に透析液を交換してくれるAPDにしたので、昼間はお腹に透析液を2リットル入れたままで、帰宅が遅くなっても大丈夫でしたよ。

**透析を始めたときのクレアチニンはどのくらいでした？**

16です。  
**ずいぶん高いですね。8を超えたら透析では？**

主治医からはいつ透析を導入してもおかしくないといわれていましたが、頑張れるだけ頑張りたいと伝えたところ、「いろいろ我慢しなきゃならないことがあるよ」とい

インタビュー 松村 満美子

われましたが、頑張りました。  
**どんなふうによ？**

どうということはないのですが、仕事が忙しく食事は昼も夜も外食でした。ただ食べる量は他の人と比べると少食で、検査値をみながら調整したりしていましたね。

**それでPDを導入してから、仕事は変わりましたか？**

責任あるポストにいたので、辞めようとも思いましたが、透析をしても勤められることを見せたい気持ちもありました。それがPDを始めたらかえって体調が良くなって続けられました。

## 数々の試練をクリアして 少しずつ自信がついた

### 腎臓が悪いのが分かったのはいつですか？

中学2年のときです。活発な子供だったのが元気がなく、心配した母親が病院に連れていったらタンパク尿がでていました。10日くらい入院しタンパク尿は消えたので、学業にもどりましたが、ある人から「腎臓病だと30才まで生きられない」といわれ、ショックを受けたのを覚えています。

### その後治療は？

定期的に通院していました。32才のときに腎生検をしたら、IgA腎症と診断され、そういえば小学校のころよく扁桃腺を腫らして熱をだしていたのを思い出し、原因はそれだったのではないかと考えました。

### 就職するとき身体は大丈夫だったのですか？

大学受験に失敗したのですが、公務員試験は通っていたので就職しようと思ってました。そしたら身体検査でひっかかり、近所の病院で診断書を書いてもらい提出したら、

## 岸 忠雄さん

1948年9月生まれ。70才。14才で腎臓病と診断される。高卒後、初級公務員として採用された後、中央大学法学部二部卒業。中級国家公務員試験合格。国家公務員として定年まで勤める。58歳腹膜透析導入。60歳退官し国立公文書館勤務。65歳退職、血液透析に移行し、俳句に親しむ日々を過ごす。27才で結婚、男の子4人。2018年秋、瑞宝小綬章受章。

もっとしかるべきところの証明書でないとダメといわれたんです。それで東大病院で診てもらい、「事務的な仕事なら問題ない」という診断書ももらいやっと入れました。同期はみな4月採用でしたが、私は6月採用になりました。

### それは大変でしたね。それでずっと定年まで？

就職した翌年から中央大学の法学部の夜間にいき、4年間で大学を卒業しました。20才のとき国家公務員の中級試験に合格しました。それで少し自信がつき、結婚もしたいと、27才で結婚しました。

### 奥様とはどこで知り合ったのですか？

職場結婚なんです。

### 腎臓病だということは？

話しました。妻は退職して、子供も4人授かりました。

### これまで体調が悪くなったりとかはなかったですか？

ありません。役所を休むこともなく、本当に仕事人間でやってきたんですが、そうですね、腎臓病とは関係ないかもしれないんですけど、30才を過ぎた頃、すごく忙しく疲れ切っていたときに、前日まで一緒に仕事をしていた人

がくも膜下出血で急死したことがありました。葬儀やらをバタバタ済ませた直後、職場で急に胸の鼓動が激しく息苦しくなって、救急車で病院にいきました。

### もしかして発作性頻拍？

ええ、病院にいくと治っちゃうんですが、この発作がたびたび起き、いつ起こるか不安がつのりました。

### それは大変でしたね。

その頃は忙しく午前0時を過ぎても仕事をしているのが当たり前でした。同じ方面の人たちがまとまってタクシーで帰るんですが、タクシーで高速道度を走るという閉鎖空間が怖くて同乗することができなかったんです。

### それで、どうしました？

一人だけ0時12分の最終電車で先に帰りました。でも「俺たちがタクシーで帰るのに、おまえ電車で帰るのかよ」という雰囲気、すごくやりにくかったですね。

### 病気のことは説明してなかったのですか？

親しい人は知っていましたが、公言はしていませんでした。というのも病気だということが分かって「無理させら



日々のデータ、感じたこと、未来への思い、ひとつひとつ書きためた記録とともに

れないんだ」ということになり  
ますので、私としてはちゃんと  
仕事をやるということが大切  
でしたから。

**それで発作性頻拍は克服でき  
たんですか？**

20年くらいかかりました。

**どうやって？**

上司の海外出張に同行する  
よういわれて、13時間のフ  
ライトなのでとても無理と辞  
退したのですが、直々の上司  
から「どうしても行ってく  
れ」といわれたんです。それ  
で「なったらなったらいいや」  
と思い切って行きました。

**開き直るといいといいますね。**

これですいぶん自信がつけ  
ました。病気を抱え、夜学を  
卒業し、結婚して一家も持っ  
た。「30才までしか生きら  
れない」と思っていたのが、  
58才まで普通の人と同じに  
働いてこれたから、透析に  
なっても大丈夫、ちゃんと働  
けると思えたんです。

**血液透析（HD）に移行した  
のはいつですか？**

5年前です。65才で第二  
の仕事をやめるとき、PDも  
7年目で、これを機会にHD

に変えることにしました。

**PDはトラブルなしでしたか？**

はい、ただシャントも作っ  
ていつでもHDに移行できる  
というそのときに、実は、腹  
膜炎を起こしてしまって…痛  
くて我慢できず急患で近所の  
総合病院にかかり、そこから  
救急車でかかりつけの病院に  
運ばれました。

**それは大変でしたね。それで  
HDに変えられたのですね。**

**体重管理は食事のたび  
体重計にのって完璧！**

**今はどのようにやってらっ  
しゃいますか？**

週3回4時間で始め、昨  
年から週3回5時間です。

**HDをしているあいだは何を  
なさっているんですか？**

テレビをみたり、文庫本も  
一冊枕元に置いておきます  
し、それから最近始めたカラ  
オケサークルの課題曲を聞い  
て覚えたりしています。

**今の体調はいかがですか？**

実は中学生のとき病気が分  
かってからずっとだるくて、  
58才でPDを導入して楽に  
なり、65才でHDを始め、

今が一番体調がいいんです。

**今は仕事もリタイアなさっ  
て、何か新しいことを始めて  
いるのですか？**

はい、俳句を始めました。  
自転車で15分くらいのとこ  
ろに手賀沼というのがあって  
散歩にいつかは吟行みたい  
なことをするんです。

**素敵ですね。そんなに元気だ  
と食欲も進み、HDの体重管  
理は大変ではないですか？**

それが実は優等生だといわ  
れているんです。

**さすがですね、どうやってい  
るんですか？**

私の場合は透析が一日おき  
だと体重の増加は1.6キロ、  
2日おきでは2.5キロまで  
なんです。それで食事のたび  
に体重計に乗っています。

**体重計で管理しているのですか？**

たとえば800g増えてい  
て、次の透析まであと2食  
だと、400g、400gと食べ  
れば1.6キロだとやるんです。

**それはすごい！ずっとそう  
やって管理しているから、保  
存期を44年間も保ち、透析  
を導入してからも元気でい  
らっしゃるんですね。**

インタビューを終えて・・・・・・・・



同席してそばで話を聞いておられた奥様は、男の子ばかり4人の子育てで忙しく、「主人の体調管理は自分でしてくれていたもので、そんなに大変とは思いませんでした」とのこと。一方、岸さんは、「仕事を全うしてこれたのは多くの人たちのおかげ、特に家内のおかげ」とおっしゃっていました。何ごとにも全力投球でまじめに立ち向かうお人柄が、今の幸せにつながっているのでしょうね。長い長い保存期をキープして、透析に入って身体が楽になったといわれたのが印象的でした。